

(6) カラー

ア 各病害虫の防除

疫病

軟腐病

モザイク病(CMV、D s MV)

アブラムシ類

ハスモンヨトウ

ア 各病害虫の防除

【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

疫病

(耕種的・物理的防除)

- 1 湿地性カラーの場合は、抵抗性品種(ウェディングマーチ、アクアホワイト、ブリリアント・ベル)を作付ける。

軟腐病

(耕種的・物理的防除)

- 1 塊茎は傷つけないようにし、株分け後は陰干しし、傷口の治癒を待って植付ける。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を球根吹き付け処理する。

モザイク病(CMV、DsMV)

(耕種的・物理的防除)

- 1 発病株は直ちに処分する。
- ※株分け及びアブラムシ類により伝搬する。

(薬剤防除)

- 1 [本項のアブラムシ類の防除](#)に基づき防除を行う。

アブラムシ類

(耕種的・物理的防除)

- 1 育苗時からアブラムシ類の発生に注意する。黄色粘着テープを施設の出入口や開口部の近く、若しくは苗の近くにするし、有翅(し)成虫が飛来していないか確認する。
- 2 近紫外線除去フィルムは成虫の飛来を減らす効果があるので、これらのフィルムを施設の外張りやトンネルに使用する。
- 3 施設では、側窓や天窓などの開口部に寒冷紗や防虫ネット等を張り、成虫の飛来を防ぐ。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 気門封鎖剤を散布する。
- 2 くん煙剤の使用については、[共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用法の項](#)を参照する。
- 3 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。

ハスモンヨトウ

・[共通防除の章のハスモンヨトウの防除の項](#)を参照する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 早期発見に努め、卵塊や分散前の若齢幼虫を捕殺する。
- 2 施設などでは開口部に防虫網を設置し、成虫の侵入を防止する。
- 3 交信かく乱剤を活用した防除を行う。
- 4 施設栽培においては、栽培終了後に密閉処理を行う。
- 5 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 2 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性などが確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 3 交信かく乱剤を活用する。
- 4 発生初期から薬剤を散布する。